

学科 ライフスタイル学科	氏名 片岡優介
<p>家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。</p>	
1 教育の責任	
<p>私は、2025年度より着任し、1年目である。担当科目は、教養分野である「心理学」、家庭科の教諭や栄養教諭の免許に関係する科目である「生徒指導論」など、様々な科目を担当した。1年生から4年生まで授業を行い、オムニバスの科目や実習の科目についても担当した。授業も数人の授業から100人を超える授業まで様々であった。今年度は、100人を超える授業である心理学を2コマ担当した。</p> <p>その他にも、オープンキャンパスでの授業の実施、安城学園高校1年生バス見学会で体験授業の実施なども行った。</p>	
2 教育の理念と目的	
<p>教育において大切なことは、生活をよりよく過ごせるような知識やヒントを得られることと考える。学んだことが単なる知識の収集のみに終わるのではなく得たことを生活と関連付けて、役に立つ学びにしてもらうことが大切であると考えている。そのためには、教員としての役割として、学んでいることがどんなことと結びついているかを伝えることである。もしくは、学生が自分で学んだことを生活にどのように役立てることができるかを見出してくれるようにサポートすることもよりよいと考える。</p>	
3 教育方法	
<p>心理学の授業では、動画を多く用いた。動画を用いることで、心理学に馴染みを持ってもらえるようになるだろう。自身の生活とのつながりも見出しやすくなると考えられる。</p>	
4 授業改善の活動	
<p>来年度の授業では、今年度得た授業評価アンケートの結果を参考にして、実施していきたいと考える。特に、教諭の免許に関係する科目については、まだまだ改善の余地があると考えているため、学生が教育現場で仕事をする際に、役に立つ授業にしていきたい。</p>	
5 学生の授業評価	

シラバスの内容をもう少し授業で丁寧に説明するとよいと考える。シラバスの内容は一回目の授業で主に説明することになると思うが、シラバスに記載された内容について授業ではどのようなことを扱うのかといったことを丁寧に説明できるとよいと考える。

#### 6 学生の学修成果

後期の一部の科目では、事前課題や事後課題などに取り組んでもらった。こういった課題に取り組んでもらうことによって、ただ授業の内容を聞くだけでなく、自分で考えるということにもつながると思われる。

#### 7 授業科目に関連した教材開発

授業のスライドについては、書籍の情報や論文の情報のどちらも用いた。書籍や論文の情報を提示することで、様々なことを学べると考えられる。

#### 8 指導力向上のための取り組み

「感情の取り扱い方」についての講演を行った。この講演は、指導力向上のために取り組んだものではないが、実際に、参加者に対して講演を行うことで、授業を行う上でのよい経験になると考えられる。

#### 9 今後の目標

心理学の授業では、より学生に身近に思ってもらい、役に立つ授業をしていきたい。生活と関係するテーマを取り上げて、心理学的に考えることを取り上げていきたい。

また、教職科目においては、学生が教育現場で活動し、生徒と関わる際に、必要と考えられることを伝えていきたい。教育に関係するテーマを取り上げて、授業の内容と関連付けたい。

#### 10 添付資料

無し。